

製品名: IGF-IIR (リン酸化 Ser2409) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04820**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	300kDa

抗原情報

遺伝子名	IGF2R
別名	IGF2R; MPRI; Cation-independent mannose-6-phosphate receptor; CI Man-6-P receptor; CI-MPR; M6PR; 300 kDa mannose 6-phosphate receptor; MPR 300; Insulin-like growth factor 2 receptor; Insulin-like growth factor II receptor; IGF-II receptor;
遺伝子 ID	3482.0
SwissProt ID	P11717
免疫原	抗血清は、Ser2409 のリン酸化部位周辺のヒト IGF2R 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 2381-2430

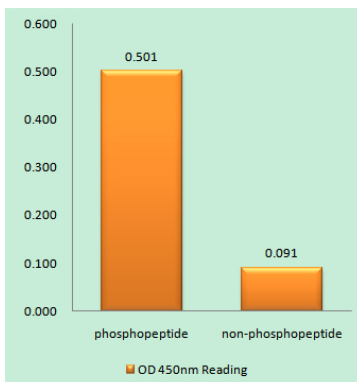
背景

この遺伝子は、インスリン様成長因子2とマンノース6リン酸の両方の受容体をコードしています。各リガンドの結合部位は、タンパク質の異なる領域に位置しています。この受容体は、リソソーム酵素の細胞内輸送、形質転換成長因子βの活性化、インスリン様成長因子2の分解など、様々な機能を有しています。この遺伝子の変異またはヘテロ接合性欠損は、肝細胞癌のリスクと関連付けられています。相同遺伝子であるマウス遺伝子はインプリンティングされており、母性アレルからの発現のみが認められます。一方、ヒト遺伝子のインプリンティングは多型性を持つ可能性があり、母性アレルからの発現が偏った個体は少数でした (PMID:8267611) 。 [RefSeq 提供、2015年11月]、ドメイン: 約147アミノ酸の繰り返し単位を15個含む。反復配列の中で最も保存性の高い領域は、両端にシステインを含む13アミノ酸の配列から構成されています。機能: ゴルジ体および細胞表面からリン酸化リソソーム酵素をリソソームへ輸送する。ホスホマンノース残基を有するリソソーム酵素は、ゴルジ体中のマンノース-6-リン酸受容体に特異的に結合し、その結果生じる受容体-リガンド複合体は酸性の前リソソーム区画へ輸送され、そこで低pHによって複合体は解離します。この受容体はIGF2にも結合します。類似性: MRL1/IGF2Rファミリーに属します。類似性: 1つのフィブロネクチンタイプIIドメインを含みます。サブユニット: GGA1、GGA2、およびGGA3に結合する。、

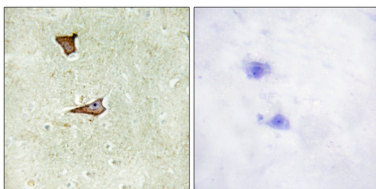
研究分野

リソソーム;

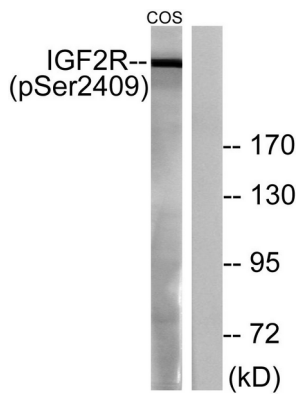
画像データ



IGF2R (リン酸化 Ser2409) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IGF2R (リン酸化 Ser2409) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15 '処理した COS7 細胞ライセートの IGF2R (リン酸化 Ser2409) 抗体を用いたウエスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。